つどい

・発行・
京都障害者
スポーツ
振興会
題字　芝田　徳造

「障害者スポーツのつどい　夏まつり」

京都府立心身障害者福祉センター体育館
（サン・アビリティーズ城陽）

樫　尚史（かたぎ　たかし）

当館の月例行事となっています「つどい」事業は、毎月第４日曜日（12月のみ第３日曜日）の午後１時30分から１時までの間、近隣の方々を中心に、毎回50名あまりのご参加をいただき開催しています。

毎回の内容は、“未来君体操”で始まり、ストレッチ運動とインターバル走で身体を温め、参加の皆さんで楽しめるようなゲームを行います。また、工作や絵画などのコーナーを設け、身体運動だけではない、参加型の楽しむ場を提供しています。

夏の暑い時期は、時節柄、恒例としています「夏まつり」を開催して、ご参加の皆さんには、ひとときの清涼感を感じていただき、楽しんでいただいています。

＊　＊　＊

今年も7月27日（日）のつどいで「夏まつり」を開催しました。今回の演し物は、当法人の施設「桃山学園」より、施設利用の子供達による和太鼓演奏で開演しました。日頃の練習の成果を発表していただき、演奏を聴いていただいた方々から大きな拍手が沸き上がりました。

この後、恒例としています“未来君体操”で、少し身体を動かしてから、アリーナを出て、冷房の効いた廊下一帯で生バンド演奏を堪能しました。

バンドが奏でる演奏に合わし、参加の皆さんは、大きな声で合唱しました。最初は、遠慮気味に唄っていた方も、バンドの方が「大きく口を開けて」「おなかに力を入れて」など、上手にリードしてくださり、何回となく唄っているうちに、みんなの大合唱が広がりました。

＊　＊　＊

そして、当館「夏まつり」恒例の“くじ引き大会”です。来館者の皆さんにくじを引いていただき、日用品などの景品を当てていただきました。当然、空くじ無しですので、皆さんは、何が当たるか、くじを開けるまでドキドキの瞬間です。

また、「夏まつり」には、日頃当館をご利用の施設が、模擬店を出店してくださいます。今年は、城陽作業所様・みんな仲間教室様・宇治共同作業所様・こもれび様よりご参加いただきました。それぞれの施設で作られた雑貨類をはじめ、パンなどの軽食、たこ煎餅やアイスクリームなど、それぞれに趣向を凝らしてご参加いただきました。

体育館からは、記念缶バッチを配布しました。缶バッチの部材は、外注で購入しますが、作成機材が法人にありますので、図柄を体育館で考案し、一つ一つ手作りで作成します。

また、ボッチャ球を用いたゲームコーナーを設け、参加者には粗品を提供しました。

＊　＊　＊

このような内容で、二時間半はあっという間に過ぎてしまいます。

来年度も、皆さんに楽しんでいただけるよう、計画していきたいと思います。

（裏面に写真）

行事予定				
10月	14（火）	丹波障害者のスポーツのつどい	府立体育館	来月のつどいは第494回
	18（土）	ほほえみ広場2014	梅小路広場	
	19（日）	障害者スポーツのつどい in 伏見港	伏見港公園	
		第37回府民総体交流種目卓球バレー大会	京都市障害者教養文化・体育会館	
	25（土）	車いすハンドボール審判講習会①	京都市障害者スポーツセンター	
	26（日）	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	11／9
11月	1（土）	車いすハンドボール審判講習会②	京都市障害者スポーツセンター	
	8（土）	車いすハンドボール審判講習会③	京都市障害者スポーツセンター	
	9（日）	乙訓障害者スポーツのつどい	向日市民体育館	第2日曜日
	京都障害者スポーツ振興会ホームページ　TEL／FAX075－712－7010 http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/（2014年8月31日に一部更新）			

【つどい５００に向けてのスタッフ会議報告】

（８月10日（日）つどい開催日に実施）

台風の中でのつどいだったので、当日の進め方について少し時間をかけて打ち合わせをしました。つどい５００に向けては、スタッフ募集について話をしました。

「つどいスタッフ募集」という大枠だけでの募集ではなく、例えばその中の「つどいの卓球スタッフ募集」では「玉拾いできる人。」「ラケットに当てて返せる人。」などどんな活動をするのかが具体的に浮かぶ呼び掛けをしていこう。という話になりました。次回もう少し深めていきたいと思います。

＊　＊　＊

【陸上大会あれこれ】

◇これって失格では

立幅跳びを砂義の横に設置されている計測機の背後から見ていると、跳ぶ直前に踏切板から足先が数センチ砂場で出る選手がいた。審判に聞こえるように「跳ぶ前に足が砂場に出たで」で言うが失格とは認められず。これ以上言うと自校の生徒に有利にするために言っていると思われても嫌なので、小声になって審判員まで届かなかったのかな。1位から3位までが、数センチで競っていたので、1人が失格になると結果が変わっていただろう。

◇消えたメダル

１００メートル走が終わり表彰を待つテントに、３位までに入賞しなかった生徒を見つける。「前を走っていた選手が失格になって繰り上げになったんだろう、ラッキーやで」と職員で話していた。応援に来ていた家族も「昨年入院するまでは太っていなくて走りも速かったけど、太ってからは遅なっている。今日も後ろから数えた方が早かったのに・・・」と言いながらも表彰を眺めてにっこり。しかし、直ぐに間違いだったと分かり、職員・家族とも納得するが、生徒だけがガッカリした表情。「帰りがけにチョコレートのメダルをいっぱい買ってもらい」と慰めるのが精一杯。

◇落としたバトン

リレー２チームの生徒それぞれ１名が欠席。２チームから２人ずつ選び（じゃんけんで）急造チームを作り出場。１走はトップで１００メートル走り２走に、２走が上手くバトンが受けられず落としてしまう。「昨日まで企業実習で練習不足やったしなあ」「一度思い込んだ受け渡し方法にこだわっていた」「練習から受け渡しが出来ず手をバタバタ動かしていたなあ。残念やけどやっぱり落としたなあ」と急造チームの難しさ、こだわりを容易に変えられない難しさを感じる。

―　―　―　―　―　―

「つどい」を探しています

つどい１７３号　１９９６年６月発行
つどい２８７号　２００５年１２月発行
つどい２８９号　２００６年２月発行
つどい３００号　２００６年３月発行

以下のつどいをお持ちの方は編集委員まで連絡して下さい